

令和6年度 事業方針（案）

はじめに

我が国の政治・経済について受け入れざるを得ない悲しい現実を見せられ、アジアの中でも「小国」に転落しようとしている我が日本を直視しながら、年老いていく我々の姿そのものではないかと考えます。

与党である自民党の裏金問題について国会では野党がここぞとばかり責め立てており、国家・国民にとっては、無駄な時間ばかりが費やされております。

一方、コロナ危機を経て新興国が驚異的な経済成長を実現しており、国内では我が国のGDPがドイツに抜かれつつあることが話題になっております。

他方、アジアやアフリカなど新興の国が高度成長することで、大国の概念が大きく変わりつつあります。日本の人口が急激に少子化により大幅に減少しており、特に姫路市の2035年の減少見込み数は近畿257市町村の中で2番目に多く、遅きに過ぎるかもしれませんが市トップがワンイシュー〈少子化対策〉でもいいから本腰を入れて、取り組んでいただかないと大変なことになるのではないかと考えます。

少子化になることは、すべての事業者にとって、避けることができない現実であり、労働集約型の介護・保育事業者には危機的な状況であります。

しかも姫路市内の介護士・保育士養成校が就学生の減少で、養成校自身が撤退あるいは当該学科閉鎖を余儀なくされており、そのような状況の中で介護士や保育士が不足しており、そして当市の各種の他の多く事業者が従業員を採用できなくて廃業に追い込まれれば、益々当市域内の少子化は急速に進んでいくものと考えます。

事業運営について

国道二号線から北側は、少子化が進行しており、利用児童数が急激に減少しており、該法人発祥の白鳥保育園を中心とした地域から以北は、一部過疎化しており、該児童数が極端に減少し、当法人としては該保育園を国道より南側の姫路バイパス間に移転を強く希望しており、該保育園については分園として残し、白鳥・峰相・書写・菅生校区の利用児童に供することを考えております。

これから保育所新設については、当法人として当面は最終的な新設としたいと考えております。

一方 介護施設は団塊世代が後期高齢者になり、高齢者の需要が急増しますので『はじめに』で述べたように介護士が大幅に不足するのを、60年以上 保育所運営続けた当該地域内での人間関係の中で人脈を通じ、何とか縁故採用を目指すとともに、他方、東南アジアにも老いが迫っており、生産年齢人口(15～64歳)が全体に占める割合は2024年に低下に転じる見通しであり、今後、高度成

長期以降の日本のような高齢化の波が押し寄せますが、東南アジア諸国は「日本並み」の高齢化年金などの備えが脆弱であります。

他方、該法人理事長の親族が国連(ユニセフ)に勤務し、20年間にわたり、タイ・東京・インド及び現シリア駐在事務所の各々の代表に赴任してきており、中でも高度成長しているタイ国では高齢化及び少子化が進行し、我が国の介護ノウハウ等々の提供により、彼らと提携し、年限を限って介護・看護の実習生として受け入れる方策も求人の一つの方策として考慮することをも考えております。

ところで少子化・核家族化・両親共働き当により、職員の中には幼児期から親や近親者にあまり愛されたことがない、またほめられることもなく、他人の役に立ったことなどもなく、そして他から必要とされることもなくて、人間関係が上手くできなく唯我独尊的な心情により職場コミュニケーションが取れなくて退職する職員も多くなっているくらいがあります。そのような考えの中で、不適切な保育や介護にならないよう各施設で管理・監督そして彼ら自身による自己研修を促さなければならぬと思っております。

おわりに

たん でん じょう じゅう じつ
丹 田 常 充 実

丹田とは臍の下三寸（10センチ）あたりの下腹部を指します。「ここに力を入れると健康と勇気を得ると言われる」と広辞苑にあります。「丹田常充実」とは、生きていく上で丹田が常に充実し、力に満たされていることが大事、ということをおっしゃっている言葉であります。

しかるに健全経営を心掛け、目先にとらわれず物事に取り組むことと、数年先の法人運営の在り方を見据えて丹田を充実させ、将来を見据えて力を蓄えて取り組むことが重要だと考えております。

2024年度重点施策

- ① 安心・安全な介護・保育サービスの実践
- ② 介護士・看護師・保育士職の確保と各々人材の資質向上

以上